

「メセナアワード2013」において「対話でアート賞」を受賞

株式会社損害保険ジャパン（社長 櫻田謙悟、以下「損保ジャパン」）および公益財団法人損保ジャパン美術財団（理事長 佐藤正敏、以下「損保ジャパン美術財団」）は10月10日、「メセナアワード2013」において、メセナ賞「対話でアート賞」を受賞しました。本受賞は、損保ジャパンおよび損保ジャパン美術財団が、地域・学校・市民と連携して行っている「未来を担う小・中学生を対象とした対話型美術教育支援活動の展開」が評価されたものです。

11月21日には、東京・表参道のスパイラルホールにて贈呈式が開催されます。

1. メセナアワードの概要

「メセナアワード」は、公益財団法人企業メセナ協議会が、企業や企業財団およびこれらの連合体が取り組むメセナ（芸術・文化振興による社会創造）活動を顕彰する制度で、1991年から毎年実施されています。市民が芸術・文化を楽しむ機会の提供、地域文化を守り育てる活動、芸術・文化団体との協働や資金支援などのあらゆる活動が対象となっています。

なお、メセナ賞の各賞は、特に評価された点が賞名に反映されています。

※「メセナアワード2013」ホームページ：<http://www.mecenat.jp/メセナを知る/メセナアワード/>

2. 今回の受賞について

今回の受賞は、損保ジャパンおよび損保ジャパン美術財団が、公立美術館のない新宿区の子どもたちに美術鑑賞の機会を提供しようと、2007年から区内の小・中学生に向けた次世代育成のためのプログラム「対話型鑑賞教育支援活動」を区と協働で展開してきたことが評価されました。

対話による鑑賞法は、作家や作品の解説を行う学芸員によるギャラリートークとは異なり、ガイドスタッフが対話を通じて鑑賞者が見たものや感じたことを引き出すことが特長です。

本活動では、ガイドスタッフが各校に赴き、事前授業を行ったうえで、休館中の美術館を子どもたちに開放し、実際に作品を見て、感じて、発見したことを言葉にしたり、友だちの言葉にも耳を傾けながら、自分なりの考えを育む取り組みであり、図工・美術の授業の一環として行われています。

ガイドスタッフは、区報やネットなどで広く募集した市民ボランティアで、社員も参加しています。「本物の芸術を子どもたちと一緒に楽しみたい」と、現在60名ほどが研修を経て子どもたちとの対話に取り組んでいます。

活動開始以前は、区内の小・中学校での美術鑑賞教育の実施率は全体の2割程度でしたが、現在では29校すべての小学校と全10校のうち7校の中学校で実施されるようになりました。

損保ジャパンおよび損保ジャパン美術財団は、今後も「対話型美術教育支援活動」を継続して実施していきます。

以上